

宗務所婦人会報

第 35 号



曹洞宗宮城県宗務所婦人会



しばらくぶりの研修会

目 次

「あいさつ」 宗務所婦人会長 森 すみえ… 2	「婦人会の活動」 光明寺仏教婦人の会… 9
「御 挨拶」 宗務所長 伊藤 守弘… 3	「心に残ったお話を聞いて」 當行寺ハチ鳥婦人会… 9
「コロナ渦とおひとり様」 東北管区教化センター統監 高橋 哲秋… 4	合同行事
宮城県宗務所婦人会総会… 5	「久しぶりに、亘理町へ」 圓通院婦人会…10
宗務所婦人会研修会	「おじゃみ作り」 當行寺婦人会…11
「気づきの大切さを学ぶ」 妙心院婦人会… 6	「梅花を始めて」 清水寺仏教婦人会 今野なみい…11
「宗務所婦人会へようこそ」 松源寺婦人会… 7	評議員報告…12
「念願の落慶法要を終えて」 耕田寺婦人会… 8	編集後記…12

あいさつ

曹洞宗宮城県宗務所婦人会 会長 森

すみえ



様、役員会にて了承していただききました。岩手県担当の東北管区研修会等も再々延期となりました。

また、今年度は役員の改選予定でしたが、何もできない二年間のこともあり再任となりました。心許ない会長ですが皆さまのご指導と、ご協力を賜りまして務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

もう今年もあとわずかとなりました。婦人会の皆さまもご健勝にお過ごしのことと思います。新型コロナウイルス感染症がでて三年になります。まだ衰えを知らず毎日発表される感染者数に、一喜一憂しているこの頃です。

このなか、青葉区土樋の松源寺婦人会のみなさまが本会に入会してくださいました。加入寺院が減少するなか、新しくご入会していただきまし

たことは大変喜ばしいことで、心より歓迎いたします。

令和四年度の婦人会の総会議事の事業案予算案は昨年同

秀ご住職様に講演いただきました。令和二年一月以来の研修会でした。

SDGs目標の五番目「ジェンダー平等を実現しよう」、十六番目「平和と公平をすべての人に」の二つのことをプロジェクトを使って分かりやすくお話くださいました。

又いただいたプリントには、この二つに関する本・映画が十二紹介してあり講演後も学ぶことができました。不安の中の決行でしたが宗務所様の前向きな姿勢、教化主事様の英断と素晴らしい講師様を選んでいただきましたことに心より感謝申し上げます。

研修会後、「なつかしい方々と会えて嬉しかった」「知らないことがたくさんあるので研修会の必要性を感じました」「早速本取り寄せました」等々のお声をいただき、やって良かったと感じております。

今後感染対策を講じ「ウィズコロナ」で婦人会活動を進めていきたいと願っています。

曹洞宗婦人会会員の誓い

おしみない心で

どうぞさしあげます

〈布施〉

やさしい笑顔で

どうぞしっかり

〈愛語〉

幸せを祈って

どうぞおさきに

〈利行〉

手をとりあって

どうぞごいっしょに

〈同事〉

私は、今日も菩薩さまの

願いに生きます

御挨拶

曹洞宗宮城県宗務所長 伊藤守弘



宮城県宗務所婦人会の皆様方におかれましては、常々のご信心誠に有り難く、各菩提寺様の活動を通して、厚くご協力をいただいておりますこと衷心より感謝申し上げます。

令和四年十二月前宗務所長三田村道雄老師の任期満了に伴い、本職を拝命したところであります。甚だ浅学非才の身であり、その任の重さを感じているところであります。何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、現在の曹洞宗管長大本山總持寺貫首石附周行禪師様は、令和四年四月に御就任されましたが、御就任のお言葉の中に「一仏両祖のみ教えに生きる私

たちはどのような生き方を目指せば良いのでしょうか。お釈迦様は智慧と慈悲をもって生きること示されました。智慧とは万物に生かされている生命の真理に気づく力です。慈悲とは限りない慈しみの心をもって人びとの苦しみを除き安楽に導くことです」と述べられ、更に「四摂法の同事を實踐の柱として分ち合い支え合い思いを重ね合って人と人との繋がりを深めてまいりましょう。」示されました。

また、曹洞宗婦人会の会則には、「曹洞宗の教えに根ざした信仰生活を確立するとともに、会員相互の連帯を深め、豊かな愛情によって、社会教化に尽力し、もって平和な世界の実現に寄与することを目的とする。」とあります。

現在私たちは厳しい無常の現実の中で、不安な生活の日常が続いております。世界的なコロナウイルスの流行 国際紛争

貧困 差別 いじめ 凶悪事件 気候変動 自然災害 等々枚挙にいとまがありません。また、東日本大震災の復旧も完全ではない近年、度々発生する台風等の自然災害により大きく被災され、現在も仮設住宅等で不自由な生活をする方々も多数おられると存じます。一刻も早い日常が戻ることを祈念してやみません。

また、昨今「持続可能な開発目標 SDGs」と言う大きなテーマが掲げられております。ご存じの如く、全世界が直面している地球規模の危機的な諸問題を、安らかな穏やかな未来を迎えるために、みんなで話し合い、解決の方法を考え、二〇三〇年までに達成すべき具体的な目標であります。このことについて、お釈迦様を初めとする仏教のみ教えそのままであり、曹洞宗でもこの目標達成のために様々な活動が展開されておりますが、日常の些細な事柄についても心掛けるべきであります。

更にまた、宗教と政治また霊感商法など信仰についての問題

が大きく取り上げられ、悲しい事件やお気の毒なご家庭の実情なども報道されております。厳しい世情の中でワラをもつかまんとする人々が、近くで悩んでいるような時、どのように向かい合うことが必要なのか難しい問題であると思います。

このような困難な状況の中で、私共は仏教の教えを實踐するために、まさに管長禪師様のお言葉や、婦人会会則の目的を抛り所として智慧と慈悲をもって、それぞれの立場や考え方の違いを認め合いながら、共に助け合いながら、支え合いながら、豊かな愛情をもって繋がって生きていることあります。

そのためには、正しい信仰をもった婦人会の方々の常々のお力によって、気軽に相談ができる仲間づくり、温かく明るい地域社会の輪を築くことが基本であると存じます。今後も菩提寺様へのご信心お力添えはもとより、宗務所へのお力添えをお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

合掌

コロナ禍とおひとり様

曹洞宗東北管区教化センター統監 高橋 哲秋



新型コロナウイルス感染が予断をゆるさない中であって、奇しくも感染された方にお見舞い申し上げます。また不幸にもお亡くなりになった方にご冥福を祈り、ご遺族の皆様にご心よりお悔やみ申し上げます。

日本で最初に新型コロナウイルス感染者が確認されたのは平成二年一月一六日でした。その半月後二月五日には横浜港に停泊したクルーズ船で六九一人が感染しました。

令和四年十一月十五日現在、世界では、感染者が六億三千五百万人以上、死者は六六一万人以上となっています。日本でも感染者二千三百三十一万人以上、死者が四万七千七百人以上、宮城県内でも三十一万人以上が感

染し、四百五十一人が亡くなっています。

感染予防にはワクチン接種が有効とされており、数度に亘って済まされた方も多いと思いますが、ウイルスの変異にワクチンが追いつかない状況であり、接種しているにも拘わらず感染した方もいます。軽い症状で治る方も多いようですが、後遺症に悩まされる場合や死に至る事もあります。

手指消毒やマスク生活が習慣となりましたが、いつ誰が感染してもおかしくないほど身近なものになっています。特に最近では外出規制なども緩和され、感染者が急増しています。くれぐれもご注意ください。

コロナ禍と無縁社会

緊急事態宣言が出されて以来、コロナ禍にあって三密を避けるようになり、人とおつき合ひも少なくなってきました。人混みを避け、買い物や旅行、ランチなどの会食も減り、会社員の

テレワークが増えました。

インターネットを使ったZoom会議やYouTube配信、通販サイトなどが見直されています。現在は、経済活性化のために行動規制は緩和されていますが、対面しなくても可能であることが実証されました。

冠婚葬祭もコロナ禍で大きく変わりました。特に葬祭はコロナ禍以前より問題視されていた直葬・炉前葬・家族葬などが進んでいます。

これらの問題は、平成二十二年一月にNHKが放映した「無縁社会」に端を発しています。

日本では少子高齢化、女性の社会進出による結婚に対する若者の意識の変化、地縁血縁社会の崩壊、個人情報保護法によるプライバシー保護の厳格化、家族や社会との対話が希薄化しパソコンやスマホのSNSによる交流が主となりました。また終身雇用制度の崩壊といった要因が重なり合い、単身者はますます孤立しやすい社会へと急速に移行しています。さらにニートやフリーター、派遣社員の増加が著しく三十代、四十代ですでに社会から孤立する人が急速に増えています。

平成二十三年三月に発生した

東日本大震災以降、「絆」に象徴される助け合いが行われるようになりましたが、それでも過疎化や無縁化は進み、「なんとか一人でも暮らしていける」と感じる人が増え、「おひとり様」が受け入れられる社会になってきました。

そこに緊急事態宣言などが発令されたことにより、葬祭はさらに縮小され、会葬者お断りの家族葬が増加し、会食も弁当に変わりました。

無縁化により孤独死も増え、身辺整理や遺品整理、埋葬などを専門に請け負う「特殊清掃業」が現れています。

他様のおかげ

衣食住は勿論、呼吸でさえ植物が出す酸素のおかげで生きているにも拘わらず、私たちは知らないうちに「他に迷惑をかけるな」と思い込まれてきました。それが最近では「他から迷惑をかけられたくない」人が増えていきます。

他に迷惑をかけて生きているからこそ、「感謝・ありがとう・おかげさま」を忘れないようにしましょう。

(岩手県遠應寺住職)

「曹洞宗宮城県宗務所婦人会総会」

日時 令和四年四月二十二日(金)
場所 滝ノ原温泉ちどり荘

四月二十二日、一年振りの顔合わせとなる第一回役員会が七ッ森の山奥ちどり荘にて開催されました。満開の鬱金桜に迎えられ、婦人会活動がうまく行く予感がしました。

役員会開始前に会計監査を終了し、東海教化主事様のご臨席のもと始まりました。総会に向けて資料確認をしていく中で、

曹洞宗婦人会本部総会・評議員会・東北管区研修会等が中止、延期で、約二年間活動自粛でなにもできずに来たが、いただく助成金を有意義に活用させてもらう会のあり方はどのようなにしたら良いかという発言に活発な意見交換となりました。

教化主事様より、本年度婦人会への助成は決定しています。宗務所も少しずつではありますが活動始めてます。寺族会、青年会、護持会曹洞宗SDGs会に係っているので婦人会活動に可能な情報を提供しますと力強いお言葉をいただき



ました。さらに七月SVA盛岡大会記念事業「SDGs講演会」の参加をご提案いただき事業計画に入れました。

本役員会を新年度総会とし、資料作成して各寺院に発送することとなりました。風に舞う桜をながめながら、山のおいしい空気と食事をいただき、頭も体もリフレッシュした役員会・新年度総会となりました。

Ⅱ後日談Ⅱ

予定していたSVA盛岡大会記念事業「SDGs」講演会が七月五日に中止の報が入り、七月七日の第二回役員会で様々検討の結果、十月七日「SDGs」に関する講演会を仙台サンプルにて開催することになりました。

報告 庶務担当



宗務所婦人会研修会

令和四年十月七日(金) 仙台サンプラザ

SDGs 理解することから はじめる

講師 茨城県 安禅寺住職
染谷典秀 師

1. 貧困をなくそう
2. 飢餓をゼロに
3. すべての人に健康と福祉を
4. 質の高い教育をみんなに
5. ジェンダー平等を実現しよう
6. 安全な水とトイレを世界中に
7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに
8. 働きがいも 経済成長も
9. 産業と技術革新の基礎をつくろう
10. 人や国の不平等をなくそう
11. 住み続けられるまちづくりを
12. つくる責任 つかう責任
13. 気候変動に具体的な対策を
14. 海の豊かさを守ろう
15. 陸の豊かさを守ろう
16. 平和と公正をすべての人に
17. パートナリーシップで目標を達成しよう

気づきの大切さを学ぶ

妙心院婦人会

「SDGs」については二〇一五年に国際連合サミットで二〇〇ヶ国弱の全会一致のもと、だれ一人取り残さない”をスローガンに世界を変える(良くする)ためと十七の目標をかかげ各国で運動が始まり、私達も目に耳にする機会がありました。

でも具体的な活動としてどのようにしたらいいものか……？環境問題に近いうち些細なことは日常生活に於いて出来るひとつかなあ……と。

そんな中、県宗務所婦人会が二年ぶりに研修会を開催する案内があり、コロナ禍ゆえ限られ

た参加人数とのことで五名で参加しました。

「理解することからはじめる」というテーマでしばらくぶりの勉強会に新鮮な期待感がありました。

「SDGs」運動の十七項目の五番目——ジェンダー平等を実現しよう——のお話では女性差別、性差別問題について判りやすくお話をいただき、それ等に関した本(絵本あり漫画本あり)や映画を紹介し機会があったら是非とのこと会場内は熱心に聞き入る皆さんの姿がありました。

女性の地位向上につながる婦人参政権の確立のため我を犠牲にして来た女性の生きざまを知る手掛りとなるお話しもありました。

“人を属性で見ない、その人自身をみる”という性的マイノリティーについても詳しくお話して下さいまして、気づきの

大切さを人権学習の一端のように感じられ今更ながら共感するものでした。

目標十六——平和と公正をすべての人に——

毎日のように内戦とかテロとかのニュースを越えて“戦争”という最も恐ろしい悲しい出来事がメディアを通して現実に私達に届きながら心痛めるばかりです。

——問いを手放さない(知ったつもりにならない)——

——他者の靴を履く(他者の靴に足を入れてみる)(相手の心をそのまま理解してみる)——

「同事をするとき、自他一如なり」(四摂法の教えより)

人間を愛すること、愛をもって理解しようとするのと曹洞宗の和尚さまとして染谷典秀先生は講演を終えられました。

始まる前に東海教化主事さんが「貴重な時間を共有して、学びを深めていきたいものです」と挨拶されました。その通りでした。

大変有意義な研修会に参加出来たことを感謝しております。

総勢三十八名の参加者は、一同合掌です。



ジェンダー平等を実現しよう



平和と公正をすべての人に

宗務所婦人会へようこそ

松源寺婦人会会長 只野田 鶴子



松源寺では四〇年近く婦人会活動を行っております。多い時の名簿には六〇名のお名前がありました。私で四代目の会長ですが前の住職さんのご法話や六地藏さまのご供養、研修旅行など有意義な活動をしておりました。今回、現住職が宗務所の教化主事になられて、県婦人会に入りませんかと誘われお仲間入りを致しました。今後とも宜しくお願い致します。

松源寺は大永元年一五二一年の開創で、現在三十五代目のご住職です。令和五年には息子様も副住職となります。これからも菩提寺を支える婦人会を続けていきたいと思っています。

合掌

大蔵山 松源寺 沿革

大永元年（一五二一）の開創。初め岩代国白川郡にあったが、天正年中 豊臣秀吉が白河の地を没収したため伊達政宗は白河七郎義親を一家に準じて輩下に収めた。寺は一時、一迫町に有ったが十世劫外和尚の時、義親の子義綱を開基として現在地（青葉区土樋）に移った。御開山は北山輪王寺四世大光元可大和尚で現住は三十五代智堂泰典大和尚。

二〇二一年（令和三年）開創五百年を記念して岩手県正法寺盛田正孝堂頭をお迎えし、開山諷経を行う。年中行事に「三、一一を忘れない祈りの集い」観音堂御開帳供養に併せて「秋の夕べコンサート」また公益性を鑑みて「地域防災訓練」などを実施している。



念願の落慶法要を終えて

耕田寺婦人会 伊藤 洋子



二年八か月、コロナ禍の為に、延期延期で教区長様皆様と相談して、ようやく法類寺院様のご随喜で、檀信徒招待は叶わずながら檀信徒各地区役員代表参加にて二〇二二年六月二六日（日）落慶にこぎつけました。

ご詠歌はコロナ禍で練習出来ず、又、お年を召した仲間も奉詠出来なくなり五人になってしまい、婦人会の会員さんにお手伝い頂きました。初めは婦人会全員に梅花を知ってもらうために呼びかけて山内で講習会をもちました。興味をもって賛同頂いた有志に後日、指導は教区内養松院楡木百合子詠範に、奥様から、養松院様ご多忙な中、無理にお願いして、ようやく四月から月二回練習が出来るようになりしました。午後二時から二時間、全くと詠歌初心者の婦人会の皆さんに熱意ある指導してください、おかげさまで当日は十二名で詠歌を唱えることができました。震災から今日に到るまで、本

に大変な日々でした。当日の想いは言葉に言い尽くせない感謝と喜びでした。

本寺北山輪王寺の日置ご住職様初め、教区法類隣単親戚寺院方丈様には、何度もお寺に集まり、又は、それぞれの寺院にお邪魔して、式典・法要の打ち合わせに力を貸して頂きました。

当日は晴天三三度を超える暑さの中、二時より本堂にて、輪王寺日置道隆方丈様ご入堂。身の引き締まる緊張感の中、厳かに始まりました。差定通りに進み、回向、普同三拜、方丈様方、建設委員長様の挨拶、記念式典での感謝状授与等、参列した役員・婦人会・梅花講・招待客・親戚・山内の皆様。皆この日を喜び、共に身の引き締まる一日でした。

何にしても残念なことは、このコロナ禍で前回平成五年一一月の落慶法要のように全檀信徒も代替わりした今、このお祝い行事に招待できなかったことが気になりました。もちろん和尚さん、奥様、皆、胸の内は同じでいやそれ以上でしょう。

中々本寺様と末寺檀家がお会

回の記念撮影にすべて本寺様が一緒して頂き感謝に堪えません。参列者は皆私達婦人会もお弁当と記念品を頂き帰路につきました。後日檀信徒に記念パンフレットと、旧本堂の樺の丸柱で作った念珠を厄除けお守りとして役員さんにより届けられました。前回の落慶から三〇年、二度の落慶法要に参加出来たこと、この事業の困難だっただけに喜びに堪えません。コロナ感染者が減少し、皆笑顔で、婦人会活動も安心してお寺で出来る日が待ち遠しい日々です。



婦人会の活動

光明寺仏教婦人の会

「光明寺仏教婦人の会」年間行事の中に、平成二十九年からコンサートが入っています。

東日本大震災以降、東北には復興支援で多くの人々がいろいろなジャンルで来ていただきました。光明寺にもご縁があって、読響のメンバー数名が来ていただき毎年恒例となり平成二十九年からは年間行事になっています。ヴァイオリン、マリリンバ、それにその年によって和楽器だったり、落語家だったり加わり毎回楽しいひと時でした。

ところが、皆様ご周知のように二年前からのコロナ感染症によるすべての行事が中止になりました。毎年、八月ごろの予定が今年もできませんでした。が、後半になって政府の対応が緩和されてきました。

十月に、盛岡、石巻、いわきの三



市で読書のコンサートが開かれました。その帰りにお二人が寄るということで、急きょ予定を組み久しぶりに行われました。

婦人の会の会員も久しぶりの集いで楽しかったようです。但しやはりマスクの着用手指の消毒空気の入替え等々、気を使いながらの開催です。会員さんの 前のように「ふまねっと運動」など又したいね という声などがあり、これを機会に行事を少しずつ再開していきたいと思っていますが、ここにきて（十一月）又感染者の数値が上がってきているので心配なところではあります、これからはウィズコロナ、コロナと共に感染対策を取りながらの活動になります。

梅花を始めて

清水寺仏教婦人会

今 野 なみい

その名を呼べばこたえてし
笑顔の^み声はありありと
今なお^み耳にあるものを
おもいは胸にせき上げて
とどむる^{あふ}すべをいかにせん
溢る^{あふ}るものは涙^{なみだ}のみ

（追弔御和讃一番）

婦人会入会と同時に寺族様より梅花講へのお誘いをいただき、早二十数年にもなりました。

梅花講は、昭和五十八年清水寺仏教婦人会が誕生し部活と称して練習を続け、昭和六十二年に宗務所様より布教のひとつのご指導のもと正式に清水寺梅花講が発足したものです。

たくさんの御和讃や御詠歌があるなかで特に思い出す御和讃がこの追弔御和讃です。

梅花を始めて三〇四年の頃、知人のお父様が亡くなられ知人家の菩提寺は岩手県一ノ関市の円満寺（私の記憶が正しければ）でした。

その葬儀の際の御和讃がこの追弔御和讃でした。

次男を亡くして間もなかった私は特に感動的な追弔御和讃との出会いでした。

ところがこの和尚様どこかでお会いした気がしました。

「私も宮城に講師でおじゃました事があるんですよ」「もしかして二十一教区の講習会ですか？」「そうです」あの教区講習会でお会いした和尚様が円満寺副住職様でした。

「私も梅花日が浅いのですがあの講習会に参加させて頂いてました」そんな会話をさせて頂いてました。コロナ禍の中私の廻りでは今年も義姉が逝ってしまいました。お見舞いにも行けずお世話になったお礼もせず淋しくて自分の中では大きな出来事でした、

悲しみの中、梅花の講習が再開となり今回は追弔御和讃の勉強だったので、あの時の円満寺の住職様のお唱えを鮮明に思い出したのです。と同時にあの時一緒に聞いていた長男もその後すぐ逝き、円満寺での長男の言葉も思い出した。

「お母さんはこんなに上手ではないんでしょ。」と言った言葉。

上手じゃなくても逝った人達に届く梅花を、心に沁みる梅花を精進したい。初心に戻って。

合 掌

久しぶりに、亘理町へ

圓通院婦人会

以前、當行寺様へ伺い、閑上の市場へ行ったり、イチゴ狩りに行ったりしたことを思い出しました。十月二十日、當行寺様の婦人会の方と圓通院婦人会とで「おじゃみ」クッション作りをしました。会場のテーブルの上には布、針、ミシン、アイロン等準備万端でした。マンツーマンで会員さんに教えて頂き、むずかしい袋縫いも完成！綿をどっさり入れて口を縫っておじゃみが出来上がりました。

お昼は、はらこ飯を頂き、午後は二個目のおじゃみに挑戦。親切に手ほどき下さり感謝しております。孫が座りニコニコ笑顔に私の心がほっこりしました。おじゃみ作り有難うございました。



完成した「おじゃみ」

※おじゃみとは？

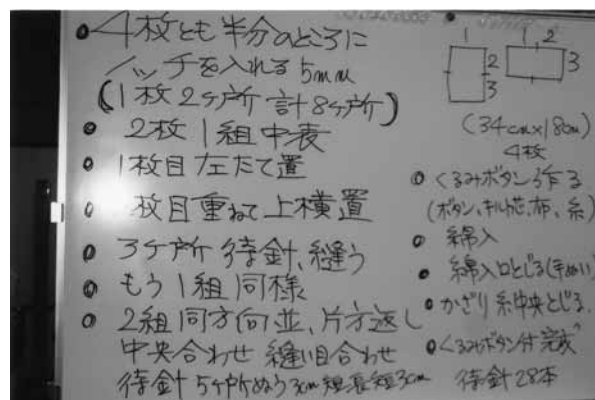
広島・大阪・京都の方言。

お手玉のこと。「お」は美称、

「じゃみ」はお手玉に入れたあずきのすれあう音感から生まれた呼び名です。



綿をいっぱい詰めて



作り方です



お昼です～



必死にがんばりました

おじやみ作り

當行寺ハチ鳥婦人会

円通院の花釜さんより布団があり捨てるには心が痛むのでどうしたら良いものかと當行寺の寺族さんに相談がありました。布団を譲り受けて打ち直し新たな綿になりました。この綿を利用して何か出来ないかと考えた末、おじやみ作りをしようとなりました。布はタンスに眠っている昔の着物を会員の方々に提供していただき、クリーニングし同サイズを四枚に裁断しました。圓通院、當行寺の会員の方々とおじやみ作りに奮闘しました。縫い合わせに四苦八苦しながらもワイワイと賑やかに作りました。綿を入れ飾り糸、くるみボタンを付けると出来上がりです。出来上るとお互い見せ合い満足そうに手にとり笑顔がいっぱいでした。ある会員さんは、「これおばあちゃんの着



皆さんの笑顔、ステキ～！

物だよ」と思い出すように抱きしめていました。この活動を通して目標にある「SDGs」の十七〜十二番目「つくる責任、つかう責任」に繋がったかなと思いました。これからも日常生活の中で十七の目標を意識しながら生活したいと思っています。

心に残った お話を聞いて

當行寺ハチ鳥婦人会

森 すみえ

七月に、仙台市生まれの「塩沼亮潤大阿闍梨」師の講演を聴く機会がありました。師は、千三百年の歴史上二人目となる「大峯山千日回峰行」を九年間、五月から九月の間、往復四八キロ標高差千三百メートルを一日も休まず歩いて達成され、更に「断食、断水、不眠、不臥」の四無行の「食べず、飲まず、寝ず、横にならず」を九日間、二千年、三二歳で満行し、大阿闍梨の称号を得た方です。阿闍梨とは天台宗、真言宗の僧侶で教授、師範たるべき高僧の称とのことです。師は小学生の時に、千日回峰行二度満行した「酒井雄哉大阿闍梨」の行をテレビでみて、自分も回峰行者になろうと決心したそうです。後にそれが自分の定めだった様な気がしたそうです。人と人は仲良くするのは

意外と難しいものですが、皆仲良く暮らせる世の中だったら、皆幸せになれる、そう思い修行に励まれたそうです。文明や科学、技術が発達し便利なものへと人間が走りすぎている今、すべての出会いに感謝しながら、「ありがとう」「すみません」の心を忘れず、毎日を大事に、誠実に生きましようと話されました。師は個人で得た収入は無いものとし、当日の講演料も四つの団体に寄付をされました。秋保の地に福聚山慈眼寺を開山された師は、大変おだやかな優しいお姿でした。



評議員報告

評議員 岡崎 るみ子
森 すみえ

去る十一月十四日から十五日

東京グランドホテルで開催された中央研修会に評議員二名が参加してきました。評議員となり二期目（三年目）にして初めての集会、新型コロナウイルス感染拡大の懸念から今回の出席はハイブリット方式（会場直接参加とパソコンによる参加）が採

用され会場舞台前面の大きなスクリーンにリモート参加者が映し出されて一緒に参加し会議が進められました。テーマは三つ。特に1についてはshihoh

氏の講演後「布ナプキン作成」というワークシヨップがありま

した。ナプキン状にカットされた布を手順に沿って縫いそれケニヤ女性達に届けるというものです。これもSDGsの一環だそうです。

管区懇談会はブロックに分かれ、東北ブロックは嶋森常任理

1、講演 「後進国における生理の問題」

講師 ミュージックアクティビスト shihoh氏

2、管区懇談会

3、講演 「SDGs」について

講師 宇野全智 老師

事（秋田）をはじめ、出席者は七名と少数でしたがほとんどの方が三年前に就任した方々、初々しい顔合わせでした。しかし問題が一つ。

コロナ禍で二回も延期を余儀なくされた東北管区研修会会場当番の岩手県婦人会様は次期の会場を断念辞退したいとのこと報告があり今後どう進めていくのか課題が残りました。

宇野老師の「SDGs」についてのお話は全般的なお話でしたが今後も務めて知る機会の必要性を感じました。

夕飯は一人部屋でお弁当、朝食は温かいお粥を一人ずつ容器に入れて配られ各自お部屋で摂るといった対策が取られ（ペット茶のみ会場OK）事務局の細やかな配慮のおかげで令和四年度中央研修会は無事終了致しました。

編集後記

新型コロナは第8波と人々の社会活動や日常生活に挑戦するかの様に猛威を振るっておりですが、二年ぶりの研修会を開催できました。また二ヶ寺合同の活動という新たな試みを実施している婦人会もありました。

宗務所長様初め職員の方々には、いつも暖かくご支援・ご助言いただいております。と心よりお礼申し上げます。曹洞宗が連綿と続いてきたこと。何か道はあるはず。新体制の宗務所様方のご指導を仰ぎながら活動を模索していきたいと思えます。

（編集担当）

発行

曹洞宗宮城県宗務所婦人会
〒九八一―三一七
仙台市泉区市名坂字
檀町一六九―四
電話〇二―二一八―三八〇一
曹洞宗宮城県宗務所内